

公益社団法人青少年健康センター 2018 年度事業報告

1. 法人の基本情報

(1) 法人の概要

① 法人の目的

公益社団法人青少年健康センターは「青少年問題についての調査研究及び知識の普及啓発を行うとともに、精神的不応等青少年の行動上の問題に対し適切な相談指導を実施し、もって青少年の健全育成と公共の福祉増進に寄与すること」を目的としております。(定款第1章 第3条)

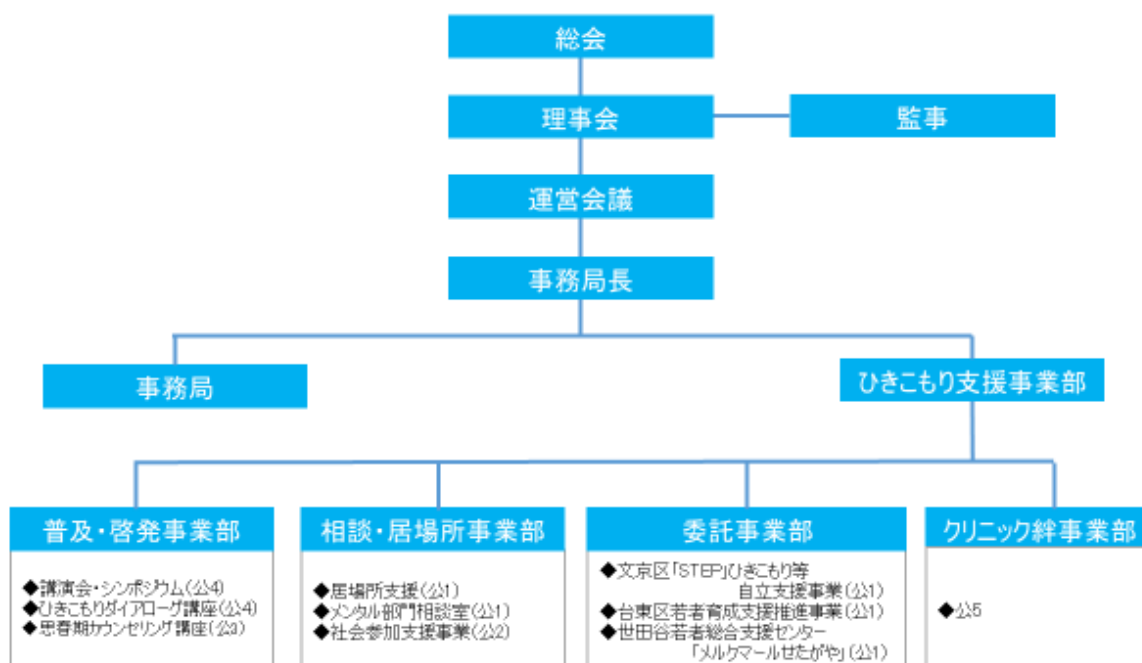
② 業務内容

当法人は、定款第1章 第3条の目的を達成するために以下の業務を行います。

- i) ひきこもり等生きづらさを抱える若者への相談・居場所支援事業(公1、公2)
- ii) ひきこもり等生きづらさを抱える若者に関する知識の普及啓発を目的とする事業(公3、公4)
- iii) 若者の自殺予防を図る無料の電話相談「クリニック絆」事業(公5)

③ 組織図(2019/03/31)

公益社団法人青少年健康センター組織図



(2) 役員の状況

公益社団法人 青少年健康センター

平成 30年度 役員名簿

役職名	氏名	職業等	備考
理事	齋藤友紀雄	日本自殺予防学会 名誉会長	非常勤(重任)
	関川俊男	関川情操教育研究 所長	非常勤(重任)
	近藤 卓	日本ウェルネススポーツ大学 教授	非常勤(重任)
	藤堂宗継	医療法人社団雄心会山崎病院	非常勤(重任)
	倉本英彦	医療法人社団北の丸会 理事長	非常勤(重任)
	岩佐壽夫	家庭ケースワーク研究所 所長	非常勤(重任)
	笹原信一郎	筑波大学 准教授	非常勤(新任)
	井利由利	公益社団法人青少年健康センター 茗荷谷クラブチーフスタッフ	常勤(重任)
	時盛昌幸	公益社団法人青少年健康センター 事務局長	常勤(重任)
監事	菊池 章	医療法人白翔会浦和神経サナトリウム 院長	非常勤(重任)
	佐藤 容子	横浜あかり法律事務所	非常勤(新任)
参与	斎藤 環	筑波大学教授	非常勤(重任)
	中島聡美	武蔵野大学教授	非常勤(重任)

2. 事業の説明

2018年度(自2018年4月1日至2019年3月31日)の事業報告を下記の通りご報告いたします。

(1) 法人事業

① 青少年健康センター 理事会開催

i) 第1回理事会開催

2018年5月23日(水)午後6時30分より青少年健康センター三軒町ビル205号室にて平成30年度第1回理事会が開催されました。総理事9名のうち理事8名、監事1名のご出席により、過半数が認められたため、理事会が成立いたしました。

当日議題として「第1号議案 平成30年度定時総会開催の件」、「第2号議案 平成29年度事業報告及び決算の承認に関する件」、「第3号議案 公益財団法人JKA補助事業 交付受託について」が挙げられ、それぞれの書類を提示し、詳細を説明したところ、満場異議なく承認可決されました。

ii) 第2回理事会開催

2019年3月14日(水)午後6時30分より青少年健康センター三軒町ビル205号室にて平成30年度第2回理事会が開催されました。総理事9名のうち理事9名、監事2名のご出席により、過半数が認められたため、理事会が成立いたしました。

当日議題として「第1号議案 平成31年度事業計画・収支予算について」、「第2号議案 理事の改選について」、「第3号議案 新規正会員の承認について」が挙げられ、それぞれの書類を提示し、詳細を説明したところ、満場異議なく承認可決されました。報告事項として「業務執行理事、職務執行状況報告」が行われ、会長・副会長から報告が行われました。

iii) 臨時理事会開催

2018年10月24日(水)午後6時30分より青少年健康センター三軒町ビル205号室にて臨時理事会が開催されました。総理事9名のうち理事7名、監事2名のご出席により、過半数が認められたため、理事会が成立いたしました。

報告事項として「平成30年度 半期経営状況報告について」が挙げられ、書類を提示し、平成30年度の半期経営状況について事務局より報告をいたしました。また「業務執行理事、職務執行状況報告」が行われ、会長・副会長から報告が行われました。

② 青少年健康センター第3回 定時総会開催

2018年6月14日(水)午後6時30分より 青少年健康センター三軒町ビル205号室にて定時総会を開催されました。総社員数45名のうち、出席社員32名(委任状出席24名)により、過半数が認められたため、総会が成立いたしました。

当日議題として「平成 29 年度事業報告及び決算の承認に関する件」が挙げられ書類を提示し、詳細な説明したところ、満場異議なく承認可決されました。また報告事項として「平成 30 年度事業計画」について報告が行われました。

③ 第 4 回 職員総会 開催

2018 年 4 月 7 日(土) 文京シビックセンター26F スカイホールにて、第 4 回職員総会が開催されました。総勢 41 名の役員・職員の皆様にご参加いただきました。本会では平成 30 年度へむけての事業方針・計画を職員一同で共有いたしました。また 2018 年度は新たに 3 名の正規職員を採用し、職員総会と併せて、入社式を行いました。

④ 助成金

平成 30 年度助成金実績として以下が採択されました。

- 厚生労働省 キャリアアップ助成金
 - ・ 正規職員に雇用することで得られる助成金として
- 公益財団法人 JKA
 - ・ ひきこもり・不登校に対する支援活動
- 日本郵便株式会社 年賀寄附金
 - ・ オープンダイアログ・ワールドカンファレンス（仮）の開催
- 公益財団法人毎日新聞社会福祉事業団
 - ・ 青少年健康センターにおけるひきこもり自立支援事業及び「クリニック絆」における自殺予防事業
- 公益財団法人大阪コミュニティ財団 山口淑子友愛基金
 - ・ 「ひきこもり家族のライフプラン」講座と DVD 制作、および個別相談会
- 社会福祉法人丸紅基金
 - ・ ひきこもり等生きづらさを抱える若者への訪問面談のための電動付自転車の購入

(2) 公益事業

2018年度の公益事業における全体の利用実績が16,027件(月平均1335.6件)にのびりました。2017年度が13,886件(月平均1157.2件)であり、公益事業全体で比較すると、利用件数が増加したという結果(2017年度比115.4%)になりました。詳細は以下に記載いたします。

① ひきこもり・不登校に対する自立支援

i) 心理相談(茗荷谷クラブメンタル部門相談,※公1に該当)

総延相談件数4,737件(茗荷谷相談*:1,131件、世田谷相談:3,103件、訪問相談:22件、電話:481件)となりました。2017年度が4,681件であり、心理相談事業の利用数は微増という結果になりました(2017年度比101.2%)。事業ごとに比較したところ、2017年度と大きな変化はなく、計画通りに事業が遂行できたものと考えております。2016年度より受託した「国士舘高等学校および中学校の生徒カウンセリング業務に関する業務委託」では、年間54日訪問し国士舘学校内の相談室を運営し相談業務を行いました。

*文京区・台東区委託事業も含む

ii) 居場所事業(茗荷谷クラブ,※公1に該当)

茗荷谷クラブおよび世田谷事業における居場所運営においては、4,764件(茗荷谷居場所:3,009件*、世田谷居場所:1,755件)となりました。2017年度実績は3,889件であり(2017年度比122.5%)、900件弱増え、大きく増加いたしました。茗荷谷クラブ・世田谷事業の居場所活動ともに増加となり(茗荷谷2017年度2,477件、2017年度比121.5%、世田谷2017年度1,412件、2017年度比124.3%)、居場所活動が充実した1年間となりました。茗荷谷クラブおよび世田谷事業ともに、従来の居場所外の活動、あらたな対象を目的に加えた居場所等事業内容を工夫したことによる成果と考えております。

*文京区委託事業も含む

iii) 社会参加支援事業(※公2に該当)

2018年度の総件数は2,691件となり(2017年度2,760件、2017年度比97.5%)、2017年度と比較すると微減となりました。

ボランティア体験、職場体験、ジョブトレーニング等の場を提供し、参加いただいたご利用者様の総延数は2,154件でした。(2017年度比99.3%)。また社会参加への準備を実施する「社会参加準備グループ」には延利用者数71件(2017年度比53.8%)でした。クラブ以外の外部交流のきっかけを提供する「演劇活動」「サッカークラブ活動」には延466件(2017年度比101.5%)となりました。

現在はグループワークや座学よりも、主にボランティア活動や就労体験を実施する事業が主体となっており、主力となる事業は同様な数字となっておりますが、それ以外の事業が縮小しているため、以上のような結果になりました。

② ひきこもり等生きづらさを抱える若者に関する知識の普及啓発を目的とする事業

i) 思春期カウンセリング講座(※公 3 に該当)

講座名		講師名	実施回数
基礎講座	基礎	藤堂宗継	計15回

昨年度で実施された思春期カウンセリング講座は計 1 講座(計 15 回)が開催され、延参加件数は 65 件となりました。2017 年度実績が 156 件(3 講座、計 17 回)でしたので、これを比較すると、2018 年度が 1 講座あたりの参加者は約 4.3 名に対し、2017 年度は1講座あたり約 9.2 名となり大きく減少となりました。現在、思春期カウンセリング講座の事業については見直しを図っており、より要望の高い講座の運営に力を注いだ結果、このような数字になりました。

ii) 実践的「ひきこもりダイアログ」講座(※公 4 に該当)

2018 年度に開催した講座は以下の通りです。

講座名		会場	日付
AM	PM		
理論編 + Q&A	対話ワーク	筑波大学	4月22日
理論編 + Q&A	対話ワーク	お茶の水女子大学	5月13日
理論編 文京区委託事業	家族会(対話ワーク)	AM: 文京区民センター PM: 中央大学駿河台記念館	6月30日
家族宿泊セミナー		東京ワシントンホテル	8月18,19日
理論編 + Q&A	対話ワーク	中央大学駿河台記念館	10月20日
理論編 + Q&A	対話ワーク	中央大学駿河台記念館	11月24日
理論編 + Q&A	対話ワーク	中央大学駿河台記念館	12月15日
理論編 + Q&A	対話ワーク	中央大学駿河台記念館	1月12日
理論編 + Q&A	対話ワーク	中央大学駿河台記念館	2月23日
理論編 + Q&A	—	跡見学園女子大学	3月9日

2018 年度より従来の「ひきこもり対策講座」からオープンダイアログ的手法を用いた「ひきこもりダイアログ講座」と内容と名称を変え運営を行いました。当法人参与である精神科医齋藤環氏(筑波大学教授)を中心に原則月に一回行われ、2018 年度は計 10 回開催し、902 名の方のご参加がありました。2017 年度では 11 回開催、年間 483 名であり、大きな増加となりました(2017 年度比 186.7%)。1 回あたりの平均で比較すると、2018 年度が 90.2 名、2017 年度が 43.9 名の参加ということになり、事業を改善した効果が見られました。

iii) 講演会・シンポジウム(※公 4 に該当)

2018 年度に開催した講演会は以下の通りです。

講座名	会場	講師名	実施日
公認心理師 現任者講習会	トラストシティ カンファレンス ・京橋	平井康仁（平井康仁産業医事務所） 黒沢幸子（目白大学） 佐藤さやか（国立精神・神経医療研究センター） 大嶋栄子（NPO法人リカバリー）	5月3日 ～6日
ケアとしての就労支援を考える ～当事者・企業・支援者の視点から～	中央大学 駿河台記念館	茗荷谷クラブ メンバー 株式会社シミズオクト	7月28日
ひきこもり家族のライフプラン	中央大学 駿河台記念館	梶中雅子（ファイナンシャルプランナー）	9月22日
オープンダイアログ・ ワールドカンファレンス	東京大学 安田講堂（東京） 龍谷大学 響都ホール校友会館 （京都）	斎藤環氏 向谷地生良氏 *東京のみ Douglas Ziedonis氏（アメリカ） Mark S.Hopfenbeck氏（ノルウェー） Mary Olson氏（アメリカ） Shi-jiuan Wu氏（台湾） *京都のみ	2月3日 （東京） 2月9日 （京都）

2018年度では計5講座を開催し、計782名の方にご来場いただきました。2017年度では120名であり、大きな増加となりました（2017年度比651.7%）。2018年度は様々な助成金に恵まれたこともあり（*P4参照）、様々な講演会を企画・実施することができました。その結果、会員様や一般参加者様の要望に応えることができたことにより以上のような結果になったものと推測されます。

③ クリニック絆（※公5に該当）

2018年度で7年目を経過したクリニック絆の総相談件数は1,770件にのびました。昨年度が1,562件であり、微増となりました（2017年度比113.3%）。増加の要因として、28年度末からGoogleのインターネット広告を活用したことにより、多くの方々が絆のことを知る機会が増え、相談件数が増加したものと思われませんが、リピーターの卒業等重なり、下半期の件数は減少傾向でした。これで7年連続の増加となっておりますが、次年度以降も件数を維持するために更なる広報活動に励む必要があります。

以上、2018年度事業報告をさせていただきました。2018年度は、様々な事業において改善を図り、また多くの助成事業に恵まれたこともあり、全体の利用数は、2017年度より利用実績が大きく増加いたしました。新たな事業を企画できたことにより、ご利用者様が求めている事業を行っていたのではないかと考えております。これに慢心することなく、今後とも安定した各公益事業の実施、より社会に求められる事業運営を行ってまいります。職員全体で力を合わせて社業に注力する所存です。どうぞなお一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

以上